

図書館だより

CONTENTS

私と図書館	1	Webで論文を見つけるには～リンクリゾルバ～	4～5
学生essay ～ 図書館活用法 ～	2	平成26年購読雑誌の新規・中止について /	6
書評 『風が強く吹いている』	3	寄贈図書案内 / 人事往来	

私と図書館

生物・医学領域 教授 野村 憲一

私は学生時代、図書館に入りびたりだった。その図書館というのは、母校の京都府立医大の図書館ではない。医大の図書館には、医学の本しかなく、つまらなかったからだ。まだ若かった私がひたすら通ったのは、千本丸太町を西に入ったところにある京都市中央図書館である。このバカでかい図書館で、私は文学作品を読みまくった。中公新書や講談社ブルーバックスなどもたくさん借りて読んだ。美術書もずいぶん借りた。私の今の知識は、この京都市中央図書館の蔵書に負うところが大きい。

正直に話すと、実は、私は、学生時代、あまり大学の授業に出ていない。「授業」などは、教官がしゃべっているだけで、つまらないものだと思っていた。毎年、変りもしない内容なんだから、そんなのは、カセットテープで再生していればいいんだと思って、わざと抗議のつもりで出席しなかった。図書館で、自分で関心のある学問の勉強する方がいいと思って、私は図書館通いを始めたのだった。

実際に、たくさんの本を読んでみると、やはり感動する本に巡り合うことがある。私が最初にすばらしいと思ったのは、東京医科歯科大学の精神科教授であられた島崎敏樹先生の「生きるとは何か」(岩波新書)[請求記号159-Sh45(閉架書庫)]である。

当時の私はこのテーマに真剣に悩んでいた。「生きる意味」なんてのを深く考えてしまうのは、思春期特有の症状なんだと、今の私は思うけれど、当時の私はまじめに自分の存在意義を知ろうとしていたのだった。いろんな本を読んでも、答えは得られなかったが、この本を読んで、私はやっと「生きる意味」をつかんだような気になった。何度も何度も読んだが、それだけでは飽き足らず、内容をノートにまとめた。当時は、本は電子媒体ではなかったから、自分の手で筆写したのである。

島崎先生の著作の素晴らしさに感動した私は、わざわざ、東京の神田の古本屋街まで行って、手に入る先生の著書をすべて買って、むさぼるように読んだ。これらの本は、今でも私の本棚にある。

こうして、私は、精神医学に関心を持つようになった。精神科の医者として将来は働こうと思ったのだ。でもよく考え

てみると、精神科の先生は、患者が発する「言語」によって診断をくだしている。カウンセリングも「言語」で行われる。ならば、精神医学というのは、結局は「言語学」の一分野でしかないのではないかと私は思い始めた。あらゆる学科の授業も「言語」で行われ、人間の愛情表現も「言語」でなされる。だとすれば、ヒトをヒトとしてならしめているのは「言語」ではないのか？—そう思い始めると、いてもたってもいられなくなった。今度は、私は言語学の勉強を始めた。英語を読むのも、ただ単に英単語を英和辞典で引くだけではつまらない。OXFOEDのENGLISH DICTIONARY(英英辞典)[請求記号:833-O93-1~833-O93-20(窓下書架-1階奥側)]で引かなければ納得できなくなった。図書館にしかない、何分冊にもなっている巨大な辞書を逐一引きながら、私はベーオルフやチャーサーにもチャレンジした。英語だけでは飽き足らず、ラテン語と古典ギリシア語も始めた。図書館には、枕ぐらいの大きさはあるであろう、OXFOEDのGREEK ENGLISH LEXICON(希英辞典)があったので、ヒポクラテースやプラトーンなどを必死になって読んだ。当時はネットで単語が引けるような環境ではなかったので、図書館の机で、何キロもある大きな辞書を引き引き、文章を読んだのだ。

思い返してみると、私は、学生時代、図書館に「住んで」いたような気がする。「私の母校は図書館」と胸を張って言える。私にとって、図書館は「学問の楽園」だった。

時代はすごい勢いで変化しつづけている。図書は、紙ではなく、電子媒体となりつつある。たぶん、近い将来、図書館は、「図書」がある場所ではなく、「情報管理センター」とでも言えるような、コンピューターが並ぶ場所となるのであろう。しかし、形態は変わっても、図書館が「知の宝庫」であることに変わりはない。図書館は、いつまでも「学問の楽園」でありつづけるに違いない。知的好奇心を持つ人がいる限り、図書館は滅びることはないのだ。



連載 学生essay～図書館活用法～

私と図書館

学部2年

入学後の学内オリエンテーションで、初めて図書館を訪れた際、専門書の多さやブラウジングコーナー、キャレルデスクがあることなどが、少し前まで高校生だった私にとってどれも新鮮で、大学生になったことを意識したこと、これからたくさん利用するのだろうと、漠然と考えていたことを覚えています。

実際2年生になった今、私は週2～3回のペースで図書館を利用しています。主に課題や、レポートの参考文献探しや、自習するために利用しています。2年生になり専門的な分野の授業が増え、事前学習や課題に取り組む際、どうしても教科書では調べ切れないものがあります。そのため専門書が欠かせません。その専門書を探す際、この図書館は領域別・疾患別に図書が並べられているため、同じ分野の専門書をいちいち探すことなく、読み比べることができます。また、読み比べることで自分が本当に知りたい・調べたい知識を得ることができると思います。そして、その領域・疾患の体験記などいくつかあるので、普段得ることがあまりできない、患者さんの立場からの知識も得ることができ、独りよがりかつ専門書・教科

書の受け売りではない臨床で役立つ知識を、実習前に僅かながら身に付けることができるのではないかと考えます。また、学部生は、貸し出し期間が3週間あるため、ゆっくりと読み、調べることができる点も魅力的だと思います。

最後になりますが、本学の図書館は、今まで述べたように、勉強したり、調べ学習をしたりするには勿論のこと、ちょっとした休憩スペースとしても活用できると思います。医療・看護・薬学などの本だけでなく、雑誌や小説もあるので、空きコマや休み時間などでゆっくりしたいときなどにぴったりだと思います。私自身、テスト勉強に行き詰ったとき、気分転換するために雑誌などを読むことがよくあります。

このようにさまざまな使い方ができる本学の図書館を、これからもっと利用して、自らの知識や考え方を深めていきたいです。



私の図書館活用法

大学院修了生（平成23年度）

こんにちは。私は現在、病院で勤務をしながら自己の研究テーマに向かっている本学修士課程の修了生です。院生時代には先生方をはじめ図書館の司書さんから多大なご支援、ご指導を頂き論文を完成することができました。その中でも特に文献検索についての勉強会は大変役立ち、資料は現在でも繰り返し活用しています。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

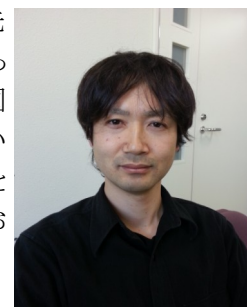
私は、本学を修了後、修士課程の学びを生かし看護研究に取り組んでいます。住まいが上越市ということもあり、本学図書館には度々足を運び、主に雑誌や論文を閲覧したり、また、論文作成にあたっては医中誌やMEDLINEなどの文献検索を利用させていただき大変助かっています。学外者として講習会に参加したこともあります。しかし、その一方で多くの困難に直面している現実があります。それは、現在の所属の病院図書室では文献収集が十分にできないことです。

看護研究を始めるにあたり、まず研究テーマに関連する文献検索を行い、さらに、図書館には見当たらない国

内外の論文を取り寄せ、文献検討を行う必要があります。しかし、そうした情報収集に障害をきたし、研究のイントロダクションの段階において行き詰まってしまうという状況にあります。

本学の修了生の全員が大学などの研究機関に在籍しているとは限りません。私たちのような境遇の間でも、本学で培った看護研究への探究心や情熱を胸に研究活動する者もいます。病院で勤務する側らで研究活動を行うためには、仕事と研究を両立させていかなければならず、時間的余裕は少ないのが現実です。また、大学図書館の開館時間に利用できるように勤務の空いた時間を見つけながら少しずつ進めていくしかありません。

在学中と違い、学外者としての利用には制約がありますが、これまで以上に図書館に足を運び学んでいきたいと思っています。さらに、司書さんや先生方とも交流をもつことによってさらなる看護の発展につながるよう図書館サービスの充実に期待しています。これからもお世話になることがあると思いますがどうぞよろしくお願いいたします。





『風が強く吹いている』

三浦しをん, 新潮社文庫, 2009年 (単行本は2006年)

成人看護学 助教 石原 千晶

久しぶりに何か読んでみたいな〜と思って本屋さんに行き、手に取ったのがこの本でした。特に読みたい本があったわけではないので、何がよいかと随分悩みました。この本を選んだきっかけは、帯に「背中を押しもらった作品第1位」、「夢に向かってがんばる人へ」と書いてあったからです。きっと、私の心理状態が、まさに「背中を押しもらいたい」状態だったのではないかと思います。

この本は、ある大学の寄せ集めの陸上部員10名が箱根駅伝を目差し、それぞれの思いを抱えながら箱根を駆け抜ける話です。登場人物は、高校時代の故障が原因で、陸上から離れたハイジと、高校陸上部で、監督を殴るという不祥事を起こして、陸上から遠ざかることになった走(カケル)と、彼らを取り巻く、オンボロアパート竹青荘(通称アオタケ)の住人8人です。2浪した大学5年生で、ニコチン大魔王のニコチャン先輩、マンガ好きで、部屋中マンガに埋もれている華やかな顔立ちの王子、双子のジョータとジョージ、音楽好きで理論派で、すでに司法試験に合格しているユキ、留学生のムサ、クイズ王のキング、山奥の村に育ち神童と呼ばれていた神童、この、合わせて人数ギリギリの10名が、箱根駅伝を目指します。何だか楽しそうな仲間とのスポコン物語か〜と思われるかもしれませんが、走るという、とても簡単なことの中で、「走ること」、「生きること」、「努力すること」、「信じること」を考えさせてくれる小説です。

この小説から問われているものは、「努力して生きることの意味」、「強く生きることの意味」なのではないかと思えます。ほぼ陸上経験のない大学生が、走ることの意味を見出すこと、走ることの困難を乗り越えること、自分を、他人を信じて走ることを、箱根駅伝という目標から体験していきます。つまり、「走ること」は「生きること」です。襷を渡さなく駅伝を通して、人とつながりながら生き、努力して頑張った結果は、自分のためでもあり、襷を渡した仲間のためでもある。信じて努力して生きることの意味を考えさせられます。

文中に、「速さだけでは、長い距離を戦いぬくことができない。天候、コース、レース展開、体調、自分の精神状態。そういういろんな要素を、冷静に分析し、苦しい局面でも粘って体をまえに運びつづける。長距離選手に必要なのは、本当の意味での強さだ。俺たちは『強い』と称されることを誉れにして、毎日走るんだ」というハイジの言葉

があります。人生を走ること、人生を生きることは、降りかかる色々な要素を冷静に分析し、苦しいときでも粘って、頑張る、前に前にと生きることが、本当の意味の、「強く生きること」なのではないかと思えました。生きていれば色々なことがあるのは当たり前です。でも、何があってもその状況を冷静に分析して頑張ること、乗り越えることができると思えました。

「走るってなんなのか、知りたいんだ」という思いでハイジは走ります。走もその答えを求めます。走ることに向かって努力する姿に、何か美しさを感じずにはいられません。結果が出ないと努力した価値がない、報われないと思われがちですが、目標に向かって努力したそのプロセスに価値がある、そこに求めた結果は見えてくるのだと教えてくれているようでした。さすが、「背中を押しもらった作品第1位」です。私も頑張らなくては、自分の人生を生きなければ、このまま頑張ってみよう、という気持ちにさせてもらいました。

自分を信じ、仲間を信じ、努力して、走ることで得られた結果は、何にも代えがたいものでした。同年代の大学生の皆さんに是非読んでもらいたいと思います。

後でわかったことですが、これはすでに映画化されていますので、見た人もいますかと思えます。私も本のタイトルを見た時から、アレっと思っていました。どこかで見たような・・・と。映画のタイトルだったのです。



請求記号: 913.6-Mi67
(文庫・新書コーナー)



Webで論文を見つけるには～リンクツールバ～

昔は情報探索は、図書館の現物資料にあたり、不足があれば他大学から文献を借りる・コピーを取り寄せるという方法で行ってきました。時代は変わり、あらゆるものが電子化の方向へ進み、雑誌も電子ジャーナルのタイトルが増え、出版社サイトやデータベース、機関リポジトリなど様々な方法でアクセスできるようになりました。

ところが、情報源が増えた反面、「どこにアクセスすればよいのかが分からない」「アクセス可能な情報源に気づかない」という問題が出てきました。

そこで本学では、誰にでも分かりやすく情報源への入手方法・経路を示してくれる、リンクリゾルバ「360Link」を導入しました。

リンクリゾルバ「360Link」を導入

リンクリゾルバとは、医中誌Webなどの文献検索データベースの検索結果から、本学で利用できる一次資料＝論文のフルテキストにナビゲートしてくれるサービスです。

通常、論文を入手したいとき、

- ① 論文が掲載されている雑誌(冊子体)を学内(図書館や研究室)で所蔵しているか、または
- ② 論文が掲載されている電子ジャーナルが学内から利用できるか

を調べなければいけません。この作業を同じ画面上で行うことができるようになったのが「360Link」です。



図1 医中誌web検索結果画面



図2 360Link中間窓

新潟県立看護大学
Find Full Text

左のアイコンをクリックすると“電子ジャーナル・電子ブックリスト”画面(360Link中間窓)が開く。

医中誌webなどの検索結果画面(図1)からアイコンをクリックするだけで、電子ジャーナル＝フルテキストへのリンクが貼られ、即座に見ることができます(図2)。フルテキストが利用できなければ同じ画面上でOPAC検索や文献依頼をすることができます。

本学で契約している電子ジャーナルだけでなく**無料公開されているタイトルも表示**されるため、「文献複写を依頼したのに、実はリポジトリで公開されていた」という無駄を省くことができます。

利用できる電子ジャーナルがあれば、**Step1 オンラインコンテンツを利用する**に表示されます。

図2では「J-STAGE」と「Medical* Online」の2つのリソースに収録されていることが分かります。

“論文”をクリックすると該当論文のPDFが開く。
“ジャーナル”は電子ジャーナル全体のページへリンクしている。

リソースとは、電子ジャーナルを収録する情報源(データベースや出版社サイト、機関リポジトリ等)を表しています。

平成25年度に導入した電子ジャーナルパッケージ「Ovid Nursing Full Text」(電子ジャーナルタイトル数:56)、Maruzen e-Book Library(電子ブックタイトル数:3)もまとめて検索できるほか、CiNiiで利用できるジャーナルやWebで無料公開されているタイトルも含めると、**32,000を超える電子ジャーナル**を学内から簡単に探すことができます。

本学でパッケージ契約している「Medical * Online」(メディカルオンライン)に収録されているかも知れません。(ただし、Medical * Onlineはダウンロード件数に限りがあるため、係員の代行印刷になります。利用者がパソコン上でPDFを表示させることはできません。また、Medical * Onlineの論文を冊子体で所蔵していた場合は、代行印刷はしません。)

電子ジャーナルが無かったら — OPAC検索とILL申込

360Link 中間窓に「お探しのジャーナルは見つかりませんでした。」もしくはリソース欄に「Medical * Online」と表示(前ページ・図2参照)されていた場合は、**Step2 図書館の蔵書を検索する(OPAC検索)**に進みます。

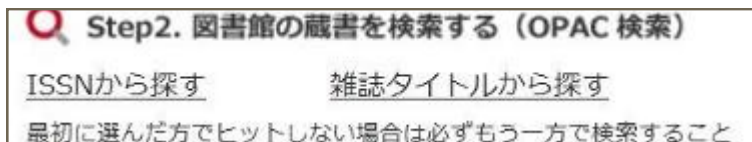


図3 360Link中間窓のStep2部分

「ISSNから探す」「雑誌タイトルから探す」をクリックするとWebOPAC画面に移動し、自動で所蔵検索する。

最初に「ISSNから探す」をクリックして所蔵が無かった場合、**ISSNを持たない雑誌もある**ため必ず「雑誌タイトルから探す」もクリックしてください。Medical * Onlineの論文も必ず所蔵確認をしてください。

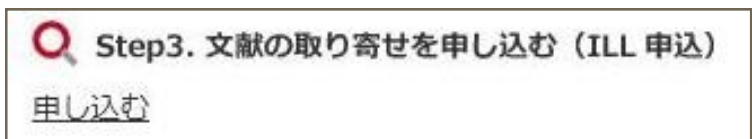


図4 360Link中間窓のStep3部分

「申し込む」をクリックすると、WebOPACの「文献依頼」のログイン画面に移動する。

所蔵が無ければ、**Step3 文献の取り寄せを申し込む(ILL申込)**に進み、他大学からコピーを取り寄せます。

Step3で申し込むためには、事前に「図書館webサービス利用申請」をする必要があります。

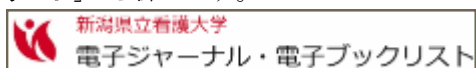
詳しくは、図書館ホームページ>利用案内>8.図書館webサービス利用申請 をご覧ください。サービス内容の詳細および操作方法の説明はPDF(215KB、学内専用)でご覧いただけます。Medical * Onlineの代行印刷を依頼するときは、「特記事項」欄に「メディカルオンライン」と明記してください。

本学でリンクリゾルバが使えるデータベースは下記のとおりです。

- ・ 医中誌web
- ・ CiNii
- ・ EBSCOhost(CINAHL, MEDLINE)

電子ジャーナルタイトルリストで探す

最初から、どの電子ジャーナルが本学から利用できるか調べるには、図書館ホームページの「**電子ジャーナル・電子ブックリスト**」から探します。



ある論文の引用文献からその論文が電子ジャーナル化されているか調べたいときは、「**Citation Linker**」で「ジャーナル名、巻・号・ページ」を入力して、探すことができます。

著作権法を遵守

電子ジャーナルが気軽に印刷・ダウンロードができるようになりましたが、著作物の使用に関しては印刷物と同様、著作権法を遵守しなければなりません。一号分すべての記事のダウンロードは大量ダウンロードとみなされ、利用停止のペナルティが課され、大学全体でアクセスできなくなりますのでご注意ください。



図5 電子ジャーナル・電子ブックリスト画面

平成26年購読雑誌の新規・中止について

図書委員会で購読雑誌の見直しをした結果、冊子体の購読雑誌は下記のとおり変更となりました。電子ジャーナルの導入に合わせて、中止雑誌が増えています。電子ジャーナルで新規購読となった雑誌もあります。

- 中止雑誌（冊子体から電子ジャーナルに切替えた分は除く）・・・6タイトル
- American Journal of Clitical Care
 - American Journal of Public Health
 - JAMA ; The Journal of the American Medical Association
 - Journal of Continuing Education in Nursing
 - The Journals of Gerontology
 - New England Journal of Medicine

- 新規購読雑誌・・・冊子体3タイトル、電子ジャーナル56タイトル（※冊子体からの切替分含む）
- 冊子体：「呼吸器ケア」「重症集中ケア」「精神看護」
 - 電子ジャーナル：Ovid Nursing Full Text（LWW刊行の看護学ジャーナルのパッケージ・全56タイトル）・・・「Advances in Skin & Wound Care」「Family & Community Health」・・・et al.

※ Ovid Nursing Full Textに含まれるタイトルは、「図書館ホームページ＞電子ジャーナル＞Ovid Nursing Full Text＞ジャーナル」で確認できます。なお、Ovid Nursing Full Textはパッケージ契約のため、年ごとにタイトルが変動する可能性があります。ご了承ください。

寄贈図書案内 平成25年12月～平成26年5月受入

下記の著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。（敬称略・受入日順）

寄贈者	書名	出版年	請求記号
岡崎 久彦	外交官とその時代シリーズ 全5巻 PHP文庫	2003	210-O48-1～210-O48-5
小山真理子	チーム医療の時代の看護基礎教育の内容と方法の充実に関する研究 平成24年度総括・分担研究報告書	2013	N257-Ko97-12
森美智子	がん患者のQOLに繋がる在宅医療推進に向けた、総合的がん専門医療職のがん治療認定医、がん専門薬剤師と協働するナース・プラクティショナーに関する研究報告書	2013	N257-Mo45
瀧健治	炭酸脱水酵素 Carbonic anhydrase EC4.2.1.1.	2013	491.45-Ta71
山本達男	ロシアの感染症update	2013	493.8-Y31
山本達男	病原体と感染症 総論編(第2版)、各論編	2013	493.8-Y31-1 ～493.8-Y31-2
山本容子	看護基礎教育から継続教育にわたる手指衛生改善のための標準的支援プログラムの構築 研究成果報告書 平成23～25年度	2014	N257-Y31
小笠裕二	解説小川未明小説1	2014	910.2-O24

このほか、本学大学院を平成25年度に修了した8名より修士論文を寄贈していただきました。

人事往来 ～図書委員と図書館職員～

新・図書委員

石原 千晶 助教(H25.10～)
 去年の10月から新しく図書委員になりました。
 図書館は学習のサポートはもちろんですが、雑誌や小説を読んだり、ホッとできる場所にもなればいいな、と思っています。よろしくお願いします。

高塚 麻由 助教(H26.4～)
 探していた本が見つかりほっとするのも束の間、周りを見渡すとなんと面白そうなお本たち！図書館って本当にわくわくしますね。皆さんが沢山探検して沢山の本に出会ってくれると嬉しいです。

新採用職員

田平 絵里(嘱託員)(H26.4～)
 4月よりお世話になっております。利用者の皆さんが円滑に図書館を利用していただけるよう、早くこの学校の図書館の特徴をおぼえて業務に努めたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

NCNL図書館だより 第35号（平成26年7月発行）

編集：新潟県立看護大学 図書委員会
 〒943-0147 上越市新南町240番地
 E-mail：tosyo@niigata-cn.ac.jp

発行：新潟県立看護大学図書館
 TEL：025-526-1169
 URL：http://lib.niigata-cn.ac.jp/